

令和4事業年度事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日)

1. 事業活動

(1) 公益目的事業

本事業については、研究開発助成等として11件22,329千円(表Ⅰ)、海外に対する普及協力及び国際交流等助成として6件7,637千円(表Ⅱ)、放送大学の学生に対する助成として17,000千円(表Ⅲ)、合計で前年度比4,966千円増の46,966千円の助成を実施した。
また、令和3年度事業のうち、進捗の遅れ、及び調査対象の拡大を図るため、事業実施期間の延長を行った事業が表Ⅳとなっている。

(単位:千円)

助成項目	令和4年度	令和3年度	対前年度比
研究開発助成等(表Ⅰ)	22,329	22,596	△ 267
海外に対する普及協力及び国際交流等助成(表Ⅱ)	7,637	1,500	6,137
放送大学の学生に対する助成(表Ⅲ)	17,000	17,904	△ 904
合 計	46,966	42,000	4,966

表Ⅰ 研究開発助成等

1. 放送大学学園への助成金

事業名	申請代表者	所属大学・職名
(1) 機関特別推進研究等 日中韓セミナーの開催及び高等学校との連携協力事業	近藤 智嗣	放送大学 副学長・学習教育戦略研究所長
(2) 学習教育戦略研究所 学習教育戦略研究所におけるDX関連研究の推進		
I 放送大学におけるライブWeb授業拡充のための調査研究		
II 放送大学における聴覚障がい学生への情報保障および新しいオンラインコンテンツの開発		
III マイクロクレデンシャルの実用化に向けた実証的研究		
IV オンライン環境を活用したアートセラピー体験の基礎研究		
V 放送大学におけるデータサイエンス教育に対するリメディアル教育の必要性や課題に関する調査		
VI 博物館構想における情報コース資料機器の活用をした目指した展示手法に関する研究		
VII デジタルデバイドの解消を推進するためのBYODの実現可能性調査		

2. 大学等の教育研究職員への助成金

事業名	申請代表者	所属大学・職名
名古屋大学と岐阜大学で同時に制御工学の実験授業を行うための研究開発 [2-2]	原 進	名古屋大学 教授
心理学実験実習に係るオンライン教材の研究開発 [3-1]	森 津太子	放送大学 教授
保健・看護系大学院生のための統計学習ウェブサイトの開発ー多変量解析法を中心にー [2-1]	戸ヶ里 泰典	放送大学 教授
オンライン教材【声トレ道場】の作成と配信～音声学、呼吸、身体ストレッチ・・・基礎から取り組む歌唱トレーニング [2-1]	渡邊 史	滋賀大学 准教授
昼間の授業でも活用可能なインターネット望遠鏡システムの開発と試行授業 [2-1]	土橋 一仁	東京学芸大学 教授
大学通信・遠隔教育における学修支援専門職養成ガイドブックの開発：FD・SDの観点から [2-1]	山鹿 貴史	八州学園大学 准教授
記号倫理学における推論の妥当性検証方法を教育するWebアプリケーションの開発	加藤 浩	放送大学 教授
遠隔教育を有効にするためのモバイル学習教材開発について～統計学・データサイエンス教育に関する印刷教材・web学習教材の改善～	石崎 克也	放送大学 教授
アイソメトリックデザインによる空間設計のための教材および制作支援システムの開発	浦 正広	金沢工業大学 講師

表Ⅱ 海外に対する普及協力及び国際交流等助成

事業名	申請代表者	所属大学・職名
感染症流行に伴う大学遠隔授業の導入とその中長期的含意ー日中米比較 [2-2]	苑 復傑	放送大学 教授
タイ王国における学校保健分野とのオンライン交流を通じたSDGsの視座による看護学生のための倫理教育プログラムの開発 [2-2]	芳我 ちより	香川大学 教授
「韓国における看護教育シミュレーション教育」Zoom講演会開催 [3-1]	山本 美輪	香川大学 教授
インターネットを利用した法学教育の現状と課題に関する国際的調査研究 [2-1]	指宿 信	成城大学 教授
専門教育とプログラミング教育との融合によるグローバルエンジニア育成プログラムの構築	山本 高久	岐阜工業高等専門学校 准教授
メタバースで世界をつなぐ国際交流：XR技術を活用した協働型プラットフォーム	林 雅子	東北大学 准教授

表Ⅲ 放送大学の学生に対する助成

① 学生活動支援事業
<p>サークル情報誌の印刷経費、通信費（切手、ハガキ購入等）、学習教材等の購入に係る費用の補助。</p>
② 放送大学が放送大学同窓会連合会と連携して行う事業
<p>入学・卒業時支援：体験談話等講話、学生相談会、学位記授与式、卒業・終了祝賀会、オープンキャンパス等での入学・学習相談会等。</p> <p>在学生支援：学生生活相談・学習相談会、就職相談活動、学生サークル・学園祭等。</p> <p>生涯学習支援：学習センターと連携して行う公開講演会等。</p>
③ 肢体不自由等の学生向け備品等配備事業
<p>学習センターに在籍する学生の中には肢体不自由等の学生が年々増加傾向にあり、その学生向けに学習環境を充実させる観点から必要な備品等の配備を支援。</p>
④ 学生支援給付金事業
<p>令和2年度事業において、新型コロナウイルス感染症拡大や自然災害の影響により経済的打撃を受けた者に対する生涯学習の機会の確保に寄与するため、当財団からの助成金 11,823千円と放送大学学園から 9,977千円の合わせて総額21,800千円を原資として「令和2年度 放送大学学生支援給付基金」を創設。令和3年度～5年度に支給を実施。</p> <p>令和3年度は、令和4年3月に、支援対象者114名に10,453千円を支給した。</p> <p>令和4年度は、令和5年3月に、支援対象者55名に5,519千円を支給した。</p>

表Ⅳ 研究開発助成等 事業計画延長分(令和3年度助成)

2021年度から2023年度に実施期間が延長された事業

事業名	申請代表者	所属大学・職名
数理・データサイエンス・AI講座の充実及び普及に向けた調整事業	近藤 智嗣	放送大学 副学長

2022年度から2023年度に実施期間が延長された事業

(1) 機関特別推進研究等 日中韓セミナーの開催	近藤 智嗣	放送大学副学長・学習教育戦略 研究所長
(2) 学習教育戦略研究所 ①放送大学におけるライブWeb授業拡充のための調査 研究 ⑤放送大学におけるデータサイエンス教育に対する リメディアル教育の必要性や課題に関する調査 ⑦デジタルデバイドの解消を推進するためのBYODの 実現可能性調査		

(2) 印刷教材出版事業

①印刷教材の作製

本事業については、令和5年度新刊本(50科目)219.5千部、既刊本317.5千部、合計537.0千部を作製した。

②印刷教材の販売

放送大学学園への納入部数は、学部498.9千部、大学院5.6千部の合計504.5千部で対前年度比126.2千部増加、市販部数は学部57.5千部、大学院5.8千部の合計63.3千部で対前年度比6.4千部減少した。この結果、合計では、対前年度比119.8千部の増加となった。

(単位:部)

区 分	内 訳	令和4年度	令和3年度	対前年度比
放送大学学園納入部数	学部	498,904	359,105	139,799
	大学院	5,636	19,265	△ 13,629
	計	504,540	378,370	126,170
市販部数	学部	57,491	61,989	△ 4,498
	大学院	5,791	7,662	△ 1,871
	計	63,282	69,651	△ 6,369
合 計		567,822	448,021	119,801

(3) 放送教材複製頒布事業

本事業については、授業科目について、新刊375枚、既刊420枚の計795枚、特別講義については、既刊6枚を作製・販売した。

この結果、放送教材の作製販売数は、対前年度比167枚増加の801枚となった。

(単位:枚)

区 分	内 訳	令和4年度	令和3年度	対前年度比
放送教材	授業科目	795	630	165
	特別講義	6	4	2
	計	801	634	167

2. 事業活動収支状況

(1) 助成事業収支(実施事業等会計)

本事業による収益は、基本財産運用益、及び投資有価証券運用益の1/2相当額並びに特定資産運用益で、対前年度比20,753千円増加の39,462千円となった。

助成事業支出は、対前年度比4,966千円増加の46,966千円となった。

事業管理費支出については、対前年度比1,753千円増加の48,060千円となり、この結果、助成事業収支は、対前年度比14,033千円増加の△55,565千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比
a 助成事業収益	39,462	18,709	20,753
b 助成事業支出	46,966	42,000	4,966
c 事業管理費	48,060	46,307	1,753
収 支 a-b-c	△ 55,565	△ 69,598	14,033

(2) 収益事業収支(その他会計)

①印刷教材出版事業収支

本事業による収益は、市販部数は対前年度比6.4千部減少したが、放送大学学園への納入部数が対前年度比126.2千部の増加となり、合計で119.8千部の増加となったことにより対前年度比160,670千円増加の825,487千円となった。

一方、印刷教材作成費は、販売数量の増加に伴い対前年度比70,454千円増加の312,756千円、事業管理費は、対前年度比7,227千円減少の213,620千円となり、この結果収支は、対前年度比97,442千円増加の299,110千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比
a 印刷教材出版・頒布事業収益	825,487	664,817	160,670
b 印刷教材作成費	312,756	242,302	70,454
c 事業管理費	213,620	220,847	△ 7,227
収 支 a-b-c	299,110	201,668	97,442

②放送教材複製頒布事業収支

本事業による収益は、授業科目に係る放送教材の販売が増加したことにより、対前年度比1,545千円増加の8,331千円となった。

一方、放送教材作成費は、販売数量及び著作権費の増加に伴い、対前年度比3,481千円増加の8,319千円となった。事業管理費は、対前年度比483千円増加の9,300千円となり、この結果収支は、対前年度比2,417千円減少の△9,285千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比
a 放送教材複製頒布収益	8,335	6,786	1,549
b 放送教材作成費	8,319	4,838	3,481
c 事業管理費	9,300	8,817	483
収 支 a-b-c	△ 9,285	△ 6,868	△ 2,417

③収益事業収支合計(その他会計)

以上の結果、収益事業の収支合計額は、対前年度比95,026千円増加の289,825千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比
a 印刷教材出版事業収支	299,110	201,668	97,442
b 放送教材複製頒布事業収支	△ 9,285	△ 6,868	△ 2,417
合 計 a+b	289,825	194,799	95,026

(3) 管理事業収支(法人会計)

管理事業の収益は、基本財産運用益、及び投資有価証券運用益の1/2相当額で、対前年度比19,288千円増加の35,518千円となった。事業管理費は、対前年度比2,367千円増加の37,262千円となり、この結果収支は、対前年度比16,920千円増加の△1,744千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比
a 管理事業収益	35,518	16,230	19,288
b 事業管理費	37,262	34,895	2,367
収 支 a-b	△ 1,744	△ 18,664	16,920

3. 当期経常増減額及び当期一般正味財産増減額

(1) 以上の結果、当期の経常増減額は、対前年度比125,979千円増加の232,516千円となった。

一方、当期一般正味財産増減額では、保有有価証券の時価評価額が43,060千円減少、法人税等77,318千円を納付した結果、対前年度比38,241千円増加の112,139千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比
a 助成事業収支(実施事業等会計)	△ 55,565	△ 69,598	14,033
b 収益事業収支(その他会計)	289,825	194,799	95,026
c 管理事業収支(法人会計)	△ 1,744	△ 18,664	16,920
d 当期経常増減額 a+b+c	232,516	106,537	125,979
e 投資有価証券評価損益等	△ 43,060	△ 9,130	△ 33,930
f 法人税等	77,318	23,509	53,809
当期一般正味財産増減額 d+e-f	112,139	73,898	38,241

4. 正味財産期末残高

上記の結果、令和4年度の正味財産期末残高は、3,213,208千円となった。

(単位:千円)

区 分	令和4年度	令和3年度	対前年度比
正味財産当年度末残高	3,213,208	3,101,069	112,139

5. 附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」については、該当の事項はない。

(注)

- 1 消費税は、税抜き表示。
- 2 表の計数は、それぞれ四捨五入によっているので、端数において合計と合致しないものがある。